

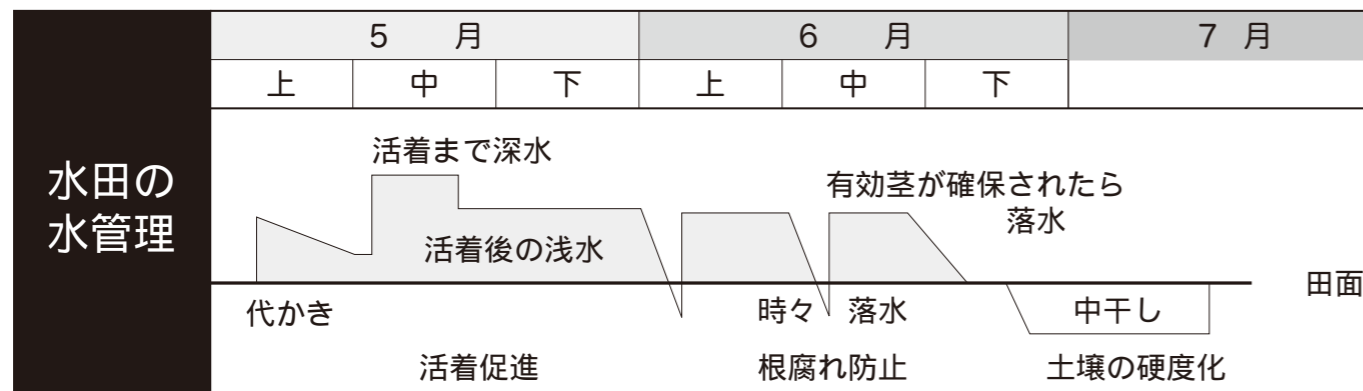
田植後の水管理を徹底して初期生育の確保を!! ＜雑草の発生が早いので水田除草剤は適期に散布を!!＞

本年の播種については、例年よりやや遅い方が多く、特に沿岸部の圃場整備地域については、一部5月10日以降の引渡しとなり、播種時期に苦労したと思います。

また、4月下旬から5月連休の降雨・強風等により、代掻き・田植え作業もやや遅れ、管内の田植えは5月6日頃から本格的にスタート致しました。

向こう1か月の天候の見通しについては、平年に比べ晴れの日が多く、降水量もほぼ平年並と出ておりますが、最近の天候は急な降雨や強風が発生しておりますので、田植又は除草剤散布後の水管理については万全に行いましょう。

《水管理の目安》



田植後の水管理について(5月中旬～下旬頃) 5月下旬以降の田植もあり

田植直後の管理と活着の促進

- 田植後の1～2日は、植え傷みを少なくする為にやや深水にしましょう。(葉先が2～3cm出る程度)
- その後は水温・地温が最も高く保てるようにやや浅水(約2～3cm)を保ちましょう。

活着後～分けつ始期の管理

- 低温が続くような場合は、5～6cmのやや深水管理とすること。(強風等も同様です。)
- 天候が良い場合は、浅水管理として水温・地温の上昇をはかり、分けつを促進しましょう。
- 表層はく離(藻類等の発生)が多い水田は除草剤の拡散や水温・地温の上昇に影響しますので薬剤の散布を検討しましょう。(モゲトン粒剤 10a当り 2～3kg 表層はく離、藻類発生時に散布)
- 入水は、早朝又は夜間に行い、日中は水田内の水を動かさないで水温を高める様に努めて下さい。

水田周辺(畔畔や農道等)への除草剤散布は飛散に要注意を!!

水田周辺へ除草剤を散布する際は、薬剤の飛散(ドリフト)を避ける為、風のある日は散布を行わないようにして下さい。

また、散布ノズルは全て「飛散防止対応ノズル」で散布を行いましょう。



効果の高い上手な水田除草剤の使い方(田植後は早めに散布を!!)

水管理

5cm以上
処理時の水深

落水、かけ流しはダメ

7日間
止水!!
水尻をしっかり止める

パック剤・豆つぶ剤

ぬれた手で扱わないでください。

薬や浮草の多発時は散布しないでください。

パックが固まっている場合は、手で軽くもみほぐしてから投げ入れてください。

※強風の時は散布を避けましょう。

水田に雑草が残った場合は、早めに中期除草剤で体系処理を!!

散布時期の遅れや抵抗性雑草の多発等により水田に雑草が残っている場合は、稲の生育に影響を及ぼしますので早めに追加防除を実施しましょう。

薬 剤 名	10a当り使用量	主 な 対 象 雑 草
アクシズMX1キロ粒剤	1kg	移植後7日～ノビエ4葉期 オモダカ、クログワイ、ホタルイ、シズイ等。
オシオキMX1キロ粒剤	1kg	移植後14日～ノビエ4葉期 オモダカ、クログワイ、ホタルイ等全般。
バサグラン粒剤 (落水して散布)	3～4kg	移植後15～50日 ホタルイ・シズイ・オモダカ等(草丈は10～15cm以下) 落水散布後は少なくとも3日間は入水をしなくてそのままの状態に保つこと。(ノビエには効果ありません。)
クリンチャーバスME液剤 (落水して散布)	1,000Mℓ (水70-100)	移植後15日～ノビエ5葉期(広葉雑草5～15cm以下) 落水した状態で雑草に噴霧機等で直接散布し3日以上は入水しないこと。

※雑草の草丈が伸びてくると除草効果も劣りますので、適期散布に努めましょう!

水稻育苗ハウスの後作に野菜等を栽培する場合は注意して下さい!!

⚠ 水稻箱処理剤の有効成分は長期残効性があります。

水稻育苗ハウス内で箱処理剤を散布した時に、育苗箱から薬剤が地面にこぼれた場合、後作の野菜等へ影響(残留)する恐れがあります。

地面にビニール等を敷いていると思いますが、箱処理剤が残っている場合は地面にこぼさないように注意することで後作への影響を防止することになります。



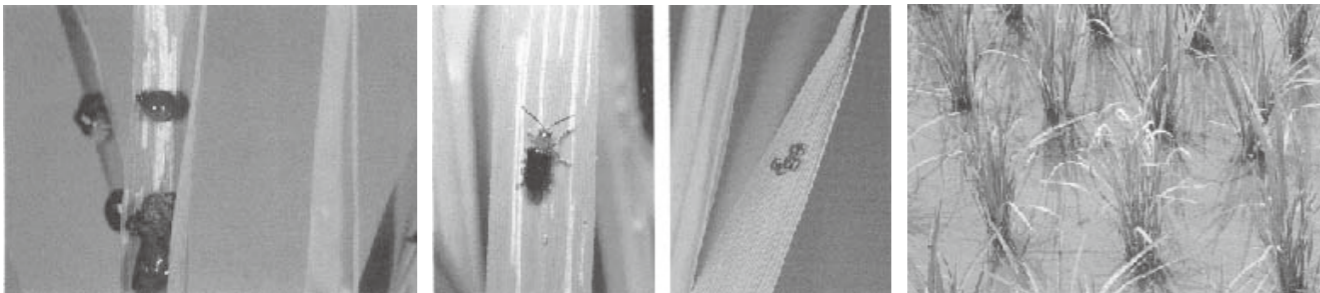
農作物の鳥獣捕獲「カモ・カラス等」のお知らせ

名取市、岩沼市の猟友会によるカモ・カラス等の捕獲を実施致しますので、期間中は十分に注意するようお願いいたします。

名取市 5月18日(水)・5月25日(水)の2回(予定)
[実施団体] 名取市有害鳥獣対策協議会

岩沼市 5月17日(火)・5月25日(水)の2回(予定)
[実施団体] 岩沼市農作物有害鳥獣対策協議会

水稲直播栽培は、殺虫剤、葉いもち病の防除を忘れずに!!



被害状況 成虫(体長約5mm)食痕 卵(約0.8mm) 幼虫(体長約5mm)

薬剤名	使用量(10a)	防除基準	散布適期	使用回数
トレボン粒剤	2~3kg	収穫21日前まで	6月上旬~6月中旬頃 (害虫の発生前に散布)	3回以内
なげこみトレボン	4~6個 (200~300ml)	収穫21日前まで	移植後20日以降~ (害虫の発生前に散布)	3回以内

粒剤・パック剤等の予防散布は、6月上旬~中旬頃に、ダラダラ発生する場合は粉剤で防除しましょう。

水稲直播栽培は「葉いもち病」の防除を必ず実施しましょう!!(6月中旬頃)
また、箱処理剤を施用してない水田も6月中旬に必ず散布して下さい。

薬剤名	薬剤の散布量
オリゼメート1キロ粒剤	10アール当り 1~1.3kg
オリゼメートパック(投込み)	10アール当り 1~1.3kg(小包装20~26個)

※コラトップ剤であれば7月上旬頃に散布(穂いもち病予防)

中期除草剤(圃場整備1年目作付等の雑草対策)

アクシズMX1キロ粒剤(3成分薬剤) 直播栽培への登録あり

・初期剤との体系処理をする除草剤としてお勧め致します。移植後7日~ノビエ4葉期まで(ホタルイ、オモダカ、シズイ、クログワイ等 効果あり。)

オシオキMX1キロ粒剤(3成分薬剤)

・初中期一発剤で雑草が残った水田にお勧めします。移植後14日~ノビエ4葉期まで(ホタルイ、クログワイ、オモダカ、シズイ等 効果あり。)

平成28年産「環境保全米栽培」で使用する農薬について(確認)

区分	薬剤名(成分名)	成分	適用病害虫・雑草等
種子消毒	温湯消毒処理	0	お湯60℃で10分 ⇒ 冷水8分 ⇒ 仕上冷水 ※稲ばか苗病対策 ⇒ タフブロック(生物農薬)
育苗防除	タチガレン液剤 (ヒドロキシイソキサゾール)	1	播種後、緑化期に散布しましょう。 苗立枯病・ごま葉枯病・根の生育促進
箱処理剤 ※播種同時処理はできません。	デジタルメガフレア箱粒剤 (殺虫剤 チアメトキサム、殺菌剤 ピロキロン)	2	◎殺菌剤 → いもち病予防効果 ◎殺虫剤 → イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、ウンカ類、小型カメムシ類(出穂期頃まで)の予防効果 ※移植前3日~移植当日に散布
除草剤 (初・中期一発)	クサトリーDX剤 ◎いずれか1剤 〈粒剤・ジャンボ剤・フロアブル剤〉 (プロモブチド・フェントラザミド・ペンシルフロメチル)	3	【ノビエ2.5葉期まで】 水田一年生雑草、ホタルイ、クログワイ、オモダカ、等 ※田植後7日~12日以内に適期散布 (粒剤・フロアブルが田植同時処理可能)
<新規取扱> 中期除草剤 (補完防除)	ワイドアタックSC(液剤) (ペノキスラム)※落水状態で散布	(1)	移植後20日以降~散布可能 【ノビエ5葉期まで】 ・クログワイ、オモダカ(20cm以下) ・クサネム(15cm以下) ・シズイ、ホタルイ等

ワイドアタックSC(液剤)(中期水田除草剤)

※移植後20日~ノビエ5葉期まで(イネ5葉期以降に散布する。)

オモダカ・クログワイ・クサネム・シズイ等に効果あり。

◎1成分の薬剤でノビエとその他雑草を同時防除が可能です。

10a当たり 薬剤100ccに希釈水量100リットル

※水田を落水状態(ごく浅水)にして雑草全体の茎葉にかかるように散布する。

5月中に環境保全米栽培のほ場登録申請をするようになりますので、田植後の品種・地番・面積等を記帳しておきましょう。

【営業時間】
午前8時30分~午後5時15分

休日の営業日	
5月	14日(土)
	15日(日)
	21日(土)
	22日(日)

営農センター

肥料・農薬・生産資材が足りない!!

購買課

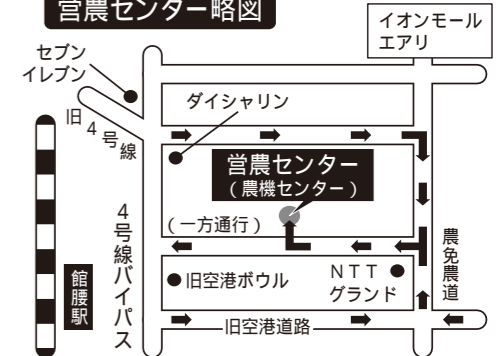
TEL 022-384-2151

機械の調子が悪い、購入したい!!

農業機械課

TEL 022-384-2353

営農センター略図



※資材等の配送は行いませんのでご了承下さい。